ユネスコによる
人類の無形文化遺産【能楽】

宝生能楽堂

能観世流「羽衣 ―和合之舞―」
観世 喜之

能金剛流「小鍛冶 ―白頭―」
金剛 永謹

平成28年7月15日(金)
開場／午後1時　開演／午後2時
会場　宝生能楽堂
主催／公益社団法人能楽協会 東京支部

【チケット料金】(税込) 全席指定

- S席 ‥‥‥ 6,000円
- A席 ‥‥‥ 5,000円
- B席 ‥‥‥ 4,500円
- C席 ‥‥‥ 4,000円
- D席 ‥‥‥ 3,000円 〔普及席〕

※各座席区分は前ページ座席表をご参照下さい。
※本公演は未就学児のご入場をご遠慮頂いております。

【チケット発売開始日】

5月16日(月) 午前10時より

【チケット取り扱い】 ※販売は下記に限り承ります。

◆ 電　話
チケットスペース ▶ 03-3234-9999 (有人対応)
※月～土 10:00～12:00／13:00～18:00

◆ インターネット
e+イープラス ▶ http://eplus.jp/ (PC・携帯共通)

◆ 店　頭
e+イープラス ▶ ファミリーマート全国各店舗 店内 famiポート

【前売チケット発売期間】 5月16日(月)～7月12日(火)

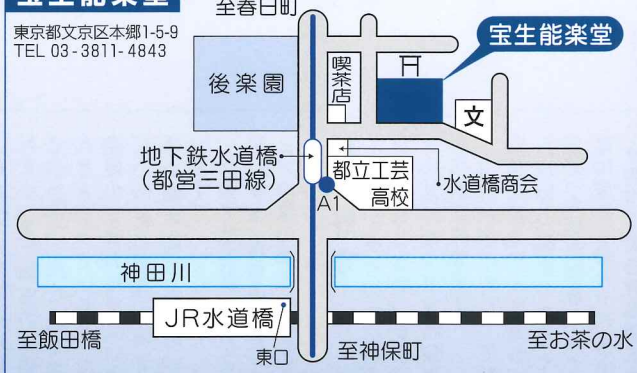
◎チケットスペースのみ7月9日(土)に終了致します。
◎前売チケットは販売期間終了前に完売することもございます。予めご了承下さい。

【当日券】 宝生能楽堂ロビー受付にて 午後1時より 販売開始

◎残席がある場合のみ販売致します。

宝生能楽堂

東京都文京区本郷1-5-9
TEL 03-3811-4843

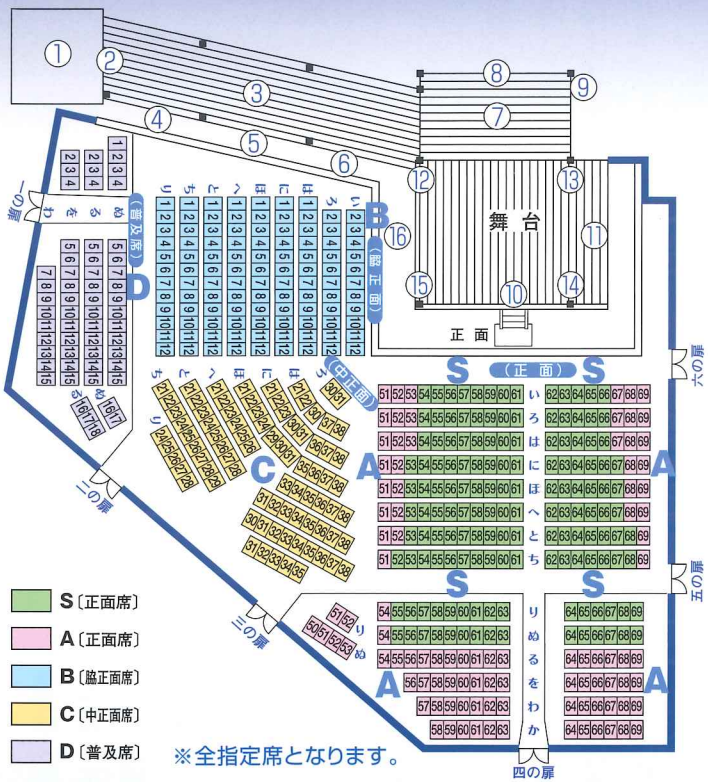


※駐車場がございませんのでお車でのご来場はご遠慮下さい。

【交通】JR水道橋(東口)徒歩3分
地下鉄都営三田線水道橋駅(A1出口)徒歩1分
都バス／水道橋下車

◆ 公演に関するお問合せ ◆　※チケット販売受付は致しませんので予めご了承下さい。
公益社団法人能楽協会 東京支部　☎03-5925-3871 ／ http://www.nohgaku.or.jp/

宝生能楽堂座席表(舞台平面図)



舞台平面図

①鏡の間	②揚　幕	③橋掛り	④三の松
⑤二の松	⑥一の松	⑦後　座	⑧鏡　板
⑨切戸口	⑩階(きざはし)	⑪地謡座	⑫シテ柱
⑬笛　柱	⑭ワキ柱	⑮目付柱	⑯白　州

能舞台

能を上演する専用の舞台を能舞台といい、四本の柱に囲まれた三間(約6m)四方の本舞台を中心として、右側に地謡座、正面奥に後座と松の描かれた鏡板をもち、左側に長さ四間ほどの橋掛りを備えた独特な形をしています。

この能舞台は元々屋外にあり、野天の白州や対面する建物が客席になっていましたが、明治以降、屋根付きの舞台と付随する楽屋、客席ごと建物に収容され、能楽堂と呼ばれるようになりました。

昔ながらの屋外舞台も全国に数十カ所現存しています。

番組

三二講座　坂　真太郎

〈開演　午後二時〉

能（観世流）

羽衣

シテ（天人）観世　喜之
ワキ（白龍）宝生　欣哉
和合之舞　ワキツレ（漁夫）則久・英志
ワキツレ（漁夫）殿田　謙吉
後見　観世　喜正
野村　四郎

大鼓　柿原　弘和　太鼓　三島元太郎
小鼓　大倉源次郎　笛　一噌　庸二

地謡
八田　達弥　松山　隆雄
遠藤　喜久　寺井　榮
中所　宜夫　角　寛次朗
岡田　麗史　浅見　重好

狂言（大蔵流）

鬼瓦

シテ（大名）山本東次郎　アド（太郎冠者）山本凜太郎
後見　若松　隆

――休憩　二十分――

仕舞（喜多流）

実盛（キリ）　友枝　昭世

地謡
大島　輝久
友枝　雄人
長島　茂
金子敬一郎

〈三時五十五分頃〉

仕舞（金春流）

蝉丸　金春　安明

地謡
辻井　八郎
本田　光洋
高橋　忍
山中　一馬

仕舞（宝生流）

野守　宝生　和英

地謡
野月　聡
前田　晴啓
金井　雄資
大友　順

〈四時十五分頃〉

能（金剛流）

小塩

前シテ（老翁）後シテ（稲荷明神）金剛　永謹

大鼓　内田　輝幸　太鼓　徳田　宗久

能　羽衣（はごろも）　**和合之舞**（わごうのまい）

駿河国・三保の松原の漁師・白龍は、浜辺の松の枝に掛かった衣を見つけます。あまりの美しさに持ち帰り家宝にしようと手に取ると、天人が現れ衣を返して欲しいと言います。

この衣が天の羽衣であると聞いた白龍は、益々返そうとしません。しかし羽衣が無いと天に帰れないと訴える天人が、空を仰ぎ嘆き悲しむ姿が哀れなので、白龍は衣を返すかわりに天上界の舞楽を見せて欲しいと所望します。天人は羽衣を身にまとい、月世界での暮らしぶりを語り、三保の松原の美景を讃えながら舞を舞い、霊峰富士をも越えて、天空へと昇って行くのでした。

小書「和合之舞」では、「序之舞」と「破之舞」を連結し、躍動感あふれる変化を見せる処が特徴です。

狂言　鬼瓦（おにがわら）

訴訟のため永らく都暮らしをしていた大名が勝訴となり、新たな領地を得て、国元への帰参が許されます。

太郎冠者を引き連れて日頃から参拝していた因幡堂の薬師如来に御礼参りに訪れますが、破風の上にある鬼瓦を見た大名は、国元に残す妻が恋しくなり、突然号泣してしまいます。

「目出度い帰国に涙は不要…。」と太郎冠者の一言に、二人は高らかに笑って帰参致します。

仕舞　実盛（さねもり）　**キリ**

遊行僧上人の僧が他阿弥陀上人と諸国遊行の際に、篠原（石川県江沼郡）を通ると斎藤実盛の霊が現れ、篠原の合戦で討死し修羅道の苦患の免れ難いことなどを語り、なおも回向を頼んで消え去ります。

仕舞　蝉丸（せみまる）

延喜帝の第四皇子蝉丸は盲目を理由に逢坂山にて捨てられます。また姉宮の逆髪も髪の毛が逆立つ病に苦しみ、心乱れさまよっていると、たまたま逢坂山で蝉丸に出会いますが、互いにその境遇を嘆きつつもまた離ればなれになってしまいます。

仕舞では逆髪が都から諸処を訪ね歩き、逢坂山にたどり着くまでの旅の様子を演じます。

仕舞　野守（のもり）

山伏が春日の里にて一人の野守の翁と出会います。翁は野守の鏡の謂などを物語り、塚の中へ消え失せます。

山伏が塚に向かって祈ると、鬼神が鏡を持って現れ、天界から地獄の底まで隈なく映して見せ、大地を踏み破って再び奈落の底にと帰って行きます。

＊野守ー野を守る番人のこと